

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第1区分
 【発行日】平成18年11月16日(2006.11.16)

【公表番号】特表2006-501461(P2006-501461A)
 【公表日】平成18年1月12日(2006.1.12)
 【年通号数】公開・登録公報2006-002
 【出願番号】特願2004-540993(P2004-540993)
 【国際特許分類】

G 0 1 L 17/00 (2006.01)
B 6 0 C 23/02 (2006.01)
B 6 0 C 23/04 (2006.01)
B 6 0 C 23/20 (2006.01)

【F I】

G 0 1 L 17/00 3 0 1 B
 B 6 0 C 23/02 J
 B 6 0 C 23/04 N
 B 6 0 C 23/20

【手続補正書】
 【提出日】平成18年9月28日(2006.9.28)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項1】

空気入りタイヤの内側に取り付けるための発電装置であって、
 圧電素子と、

該圧電素子と接触するように構成された作動体と、

該圧電素子と電気通信する制御回路とを備え、

前記作動体は、使用時に該作動体に作用する外力に応じて前記圧電素子を撓ませて、電荷を発生させるように構成され、前記制御回路は前記作動体の少なくとも一部を形成することを特徴とする発電装置。

【請求項2】

前記発電装置は、前記圧電素子、前記作動体、および前記制御回路のためのハウジングを備え、該ハウジングは、空気入りタイヤ内に取り付けられるようになっていることを特徴とする請求項1に記載の発電装置。

【請求項3】

前記ハウジングの外表面は、車両タイヤの弧状内表面に結合するようになっているほぼ弧状の輪郭を有することを特徴とする請求項2に記載の発電装置。

【請求項4】

前記ハウジングは、タイヤの内壁に結合するようになっているフッティングに着脱可能に取り付けられることを特徴とする請求項2に記載の発電装置。

【請求項5】

前記圧電素子は、圧電セラミック円板の形態であることを特徴とする請求項1から請求項4のいずれか1項に記載の発電装置。

【請求項6】

前記圧電セラミック円板は、半径Rを有し、該半径Rよりも大きい半径を有する支持円板

に取り付けられることを特徴とする請求項 5 に記載の発電装置。

【請求項 7】

前記作動体は、前記ハウジングに可動に取り付けられ、前記圧電素子と接触するようになっているアクチュエータを含むことを特徴とする請求項 2 から請求項 6 のいずれか 1 項に記載の発電装置。

【請求項 8】

前記アクチュエータは、前記圧電素子との接触のために設けられた突起を有し、且つ前記突起は細長いことを特徴とする請求項 7 に記載の発電装置。

【請求項 9】

前記制御回路は、前記アクチュエータに取り付けられることを特徴とする請求項 7 または請求項 8 に記載の発電装置。

【請求項 10】

前記制御回路は、前記作動体に寄与もするポッティング剤内に封入されることを特徴とする請求項 1 から請求項 9 のいずれか 1 項に記載の発電装置。